

# 第34回 熊野駅伝大会

問合せ先 熊野駅伝大会実行委員会事務局  
(町民体育館内) TEL854-7695

とき 2月11日(日) 午前10時スタート ところ 町民グラウンド発着による町内一円  
この日のために練習を重ねてきた各チームの選手が、皆さんのご協力のもとタスキをつないで町内一円のコースを走破します!ぜひ、最寄の沿道で盛大なご声援をお願いします!!

位置番号	中継所	ショートコース		ロングコース		中学生の部
		区間	距離	区間	距離	
①	熊野町民グラウンド正門	第1区	1.9K	第1区	3.3K	男子
②	役場前「丸福食堂」	第2区	1.4K	第2区	2.0K	女子
③	藤三熊野ショッピングセンター前	第3区	2.0K	第3区	2.7K	男子
④	東公民館前	第4区	1.5K	第4区	1.6K	男子
⑤	西本綿業前	第5区	1.6K	第5区	2.2K	女子
⑥	セブンイレブン前	第6区	2.2K	第6区	2.7K	男子
⑦	城之堀老人集会所前	第7区	2.7K	第7区	1.8K	女子
⑧	西公民館第2駐車場	第8区	1.8K	第7区	1.8K	女子
	総距離		15.1K		16.3K	

※図の中の時刻は、各中継所の予想通過時刻です。



**お願い**  
駅伝大会当日は、町内幹線道路等での交通渋滞が予想されます。通行者の皆さんには大変ご迷惑をおかけしますが、大会の趣旨をご理解いただき、開催についてご協力くださいますようお願いいたします。  
**出場関係者の皆さん、ご注意ください**  
この大会では選手への伴走は認められていません。また追走及びこれに類する行為(自転車・バイク・自動車で追走しながらの声援もこれに含まれます)を行った場合は、関係チームが失格となりますのでご注意ください。

—— 実線 全部門共通コース  
----- 点線 ロングコース (一般の部1部、中学生の部)

## 筆の里工房2月の休館日 5日・13日・19日・26日・3月5日



TEL(082)855-3010 FAX(082)855-3011  
開館時間9:30~17:00(入館は16:30まで)  
URL:http://www.fude.or.jp/  
Shopping site:http://www.kumanofude.com

とき 2月6日(火) 25日(日)  
●前期 2月6日(火) 12日(祝・月)  
水墨画・水彩画・日本画・写経・実用書道・裏打ち・イラスト  
●後期 2月14日(水) 25日(日)  
油絵・絵てがみ・かな・友禅・印・キッズアート



▲作品展示の様子

初心者を楽しみながら、筆を使うことに重点を置いて開催している各種教室「アートスクウェア」。筆の里工房に集う週末アーティストたちの作品展をぜひご覧ください。

アートスクウェア  
2007教室作品展

とき 2月10日(土) 午前10時~正午  
子どものアートパラダイス  
ステンシル画に挑戦  
入館料 大人 300円  
小中高生 150円  
幼児 無料  
※PAL会員は無料です

第22回熊野高等学校  
芸術類型卒業作品展  
全国でも珍しい高校の芸術専門コースの卒業生の作品展です。  
とき 2月27日(火) 3月11日(日)

アートパラダイス  
ふれあい書道展  
書道愛好家を対象に全国公募した書作品の優秀作品を紹介いたします。  
とき 2月27日(火) 3月11日(日)

募集開始 3月1日  
会費 PAL 2千円  
PALファミリー5千円  
PALスーパード 1万円  
PALジュニア 1千円

新年度PAL会員募集  
年間入館料がいつでも無料になる他、シヨップ、レストランの割引等特典がいっぱい!ぜひこの機会にご加入ください。

持参物 エプロン、はさみ、のり、画筆、卵パック(パレット)  
対象 小学生以下  
講師 戸川幸一郎 (絵本作家)  
参加費 1千200円 (入館料込)  
定員 25人(要申込)

「乾」「坤」の二つの桐箱に納められているのは、平安時代から江戸時代にかけての書の名人達、嵯峨天皇、空海、橘逸勢の「三筆」、小野道風、藤原佐理、藤原行成の「三蹟」、本阿弥光悦、松花堂昭乗、近衛信尹の「寛永の三筆」、そして藤原定家、藤原公任の筆です。

新年号の表紙にも取り上げられたこの11本の筆は、木村陽山コレクションの中でもとりわけ目をひく壮麗さがあります。これらは、東京帝国大学教授、日本古文化研究所長、日本考古学会会長などを歴任した日本近代を代表する歴史学者、黒板勝美(1874~1945)が、日本歴代の書の名人たちの用筆を考証し、江戸期創業の京都の老舗、鳩居堂の筆職人の手によって作られたものです。



「木村陽山コレクション」1  
仿古本朝名人用筆 乾・坤 (大正末期頃)

平安時代には、日本文化が円熟し、書の名人達がさまざまな美しい書を書いていますが、当時使われた筆は現存していません。どのような筆を使ったのかは、その書かれた筆致から推論したり、当時の文書や文学作品の中にある筆に関する記述などから考証するしかないのです。今日なお絶大な資料的価値を誇る『国史大系』の編纂・校訂に尽力し、日本の古文書学を創始したと讃えられる大学者、黒板勝美が、古今のさまざまな文献から得た知見をもとに考証したのですから、資料的にこれほど貴重なものはありません。

平安時代には、日本文化が円熟し、書の名人達がさまざまな美しい書を書いていますが、当時使われた筆は現存していません。どのような筆を使ったのかは、その書かれた筆致から推論したり、当時の文書や文学作品の中にある筆に関する記述などから考証するしかないのです。今日なお絶大な資料的価値を誇る『国史大系』の編纂・校訂に尽力し、日本の古文書学を創始したと讃えられる大学者、黒板勝美が、古今のさまざまな文献から得た知見をもとに考証したのですから、資料的にこれほど貴重なものはありません。

皇・空海・橘逸勢の「三筆」、小野道風、藤原佐理、藤原行成の「三蹟」、本阿弥光悦、松花堂昭乗、近衛信尹の「寛永の三筆」、そして藤原定家、藤原公任の筆です。

